

坂本龍馬と 勝海舟が歩いた 豊後街道坂梨宿場町と 宿泊した内牧宿場町の 足跡

常夜灯ともる夜の「坂梨宿場町」

写真提供：志賀聡雄氏

国の一大事担う往復に、 阿蘇路を踏みしめ行く

坂本龍馬と勝海舟が阿蘇路を歩いたのは、今から146年前のこと。幕末から維新の動乱期、長州藩（山口県）は、外来者を追い払い平和を維持しようという攘夷政策のもと、下関海峡を通航する仏・米・蘭の船に砲撃を開始。戦闘となり、英・仏・米・蘭の4ヶ国の反撃を中止する交渉に海舟は龍馬とともに外国の出先機関があつた長崎に向います。1864年（文久4年）、坂本龍馬が28歳の時のことです。2人は船で佐賀関に上陸し、豊後街道を通り長崎に着き、開国と近代日本につながる歴史的な活躍をここで成し遂げます。国の一大事を担う時、阿蘇路を往復歩いた！と思えば、まさに2人の力強い足音が豊後街道から聞こえてきそうです。

豊後街道を歩いたことは、勝海舟の日記に記されています。「海舟日記」より一部（往路）を紹介します。

十六日
豊後鶴崎の本陣へ宿す。
佐賀の関より五里。此地、山川水清し、川口浅し。

十七日
野津原に宿す。山の麓にて、人家可ならず、八幡川あり。海道広く、田畑厚肥、桃菜花盛、関東の三月頃の季節なり。

野津原の宿より出ずれば、山路。この道、久住山を左に見る。

十八日
久住に宿る。細川侯の旅亭。小流甚だ多く、架する橋は皆石橋、円形に畳み、橋杭なし。その巧妙、尽力の至る処殊に感ず。

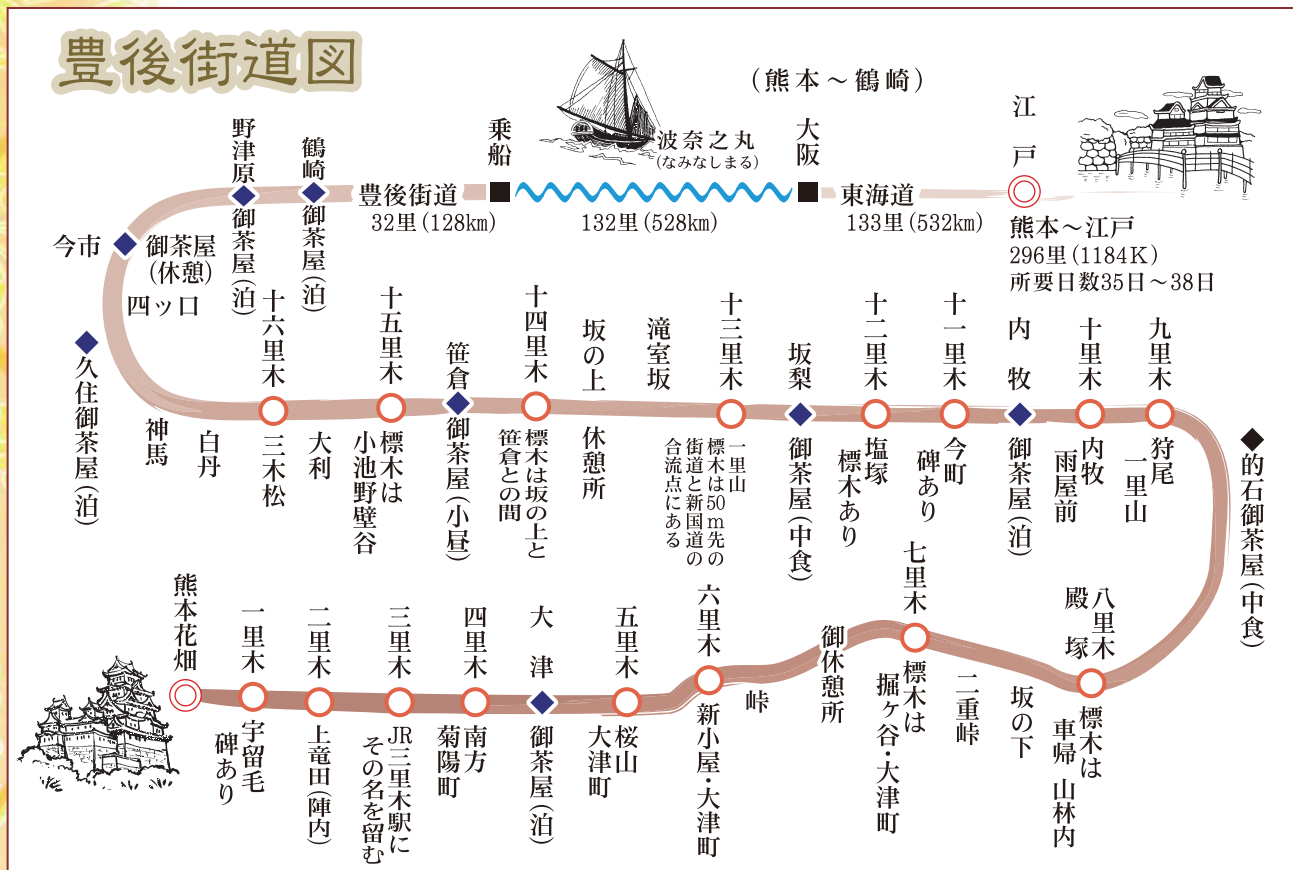
山上より阿蘇嶽を見る。この嶽に並び立ちたる高峯あり。猫が嶽と云う。山の頂上、大石、剣の如く成るもの直立す。妙義山に比すれば、更に一層の奇峯なり。

十九日
内の牧に宿す。この地もまた山中、山泉自由なり。内の牧より二里、石村あり。爰に領主小休の亭あり。素質、底は山泉一面に流る。また、一里半にして二重の峠あり。

大津宿に至る。熊城下までは少低の路、左右大杉の並樹、熊城を路二里程より望む。築制他域の比にあらず。外周最大なり。熊城下新町の本陣に宿す。（二十日）横井先生へ龍馬子を遣る

二十一日
新町出立、馬にて高橋宿に至る。同所より乗船。此夜、島原へ渡る。

豐後街道圖



資料提供 嘉悦涉氏

豊後街道とは…

加藤清正が大阪に至る最短距離（熊本～鶴崎～瀬戸内海～大阪）として造った道で、よって清正公道とも呼ばれています。距離は32里（128km）。坂の長い所は石畳が敷かれています。1632年参勤交代が法制化され、1635年から細川忠利が参勤交代で豊後街道を通り始め、以後1868年細川護久まで継続されます。



▶ 二重の峠石畳（車帰）



▶十里木の跡（内牧5区ローソン角）



▲十四里木跡（波野）



▲坂梨滝室坂石畳

さかもと りょうま

坂本龍馬 (1836~1867)

土佐出身の武士で、明治維新に影響を与えた政治家。また、貿易を行った実業家で、薩長同盟や大政奉還を導いたことでも知られる。京都で中岡慎太郎とともに暗殺されたのは王政復古の発令が公布される1ヶ月前のことでした。

かつ かいしゅう

勝海舟 (1823~1899)

幕末の最も開明的な幕臣。日米修好通商条約の批准書交換のためアメリカへ使節が派遣されるとき、咸臨丸を指揮し、日本人初の太平洋横断航海に成功。1864年には軍艦奉行となり、神戸に海軍操練所を開いて幕臣や坂本龍馬を教育した。戊辰戦争で西郷隆盛と会見、江戸城の無血開城を決めた。

宿場町・御茶屋

阿蘇市内には坂梨、内牧、的石に御茶屋があり、内牧には大名行列が宿泊していました。郡内で最も戸数が多く、宿場町、商業の場として栄えた内牧ですが、度重なる火災で当時を物語るものはほとんど残っていません。坂本龍馬が泊まったのは確かですがどこに泊まったのかも不明です。坂梨は宿場と関所（上手永関所）があり、酒造業・呉服雑貨・薬屋などの店が50軒ほど立ち並び賑わいを見せていました。的石の御茶屋は当時から湧水庭園が見事で、今も当時のままの風情を小糸家の管理のもと残り、観光スポットとして親しまれています。



▲的石御茶屋跡



大正3年の坂梨宿場の西側入口。桜町。松原橋を背にして坂梨小学校方向を向いて撮影。見事な松が緑陰を作り、桜町を象徴するサクラも道に大きく張り出しています。（写真提供 石村輝治氏）

内牧御茶屋跡

場所阿蘇体育館横のバイパスにあたる。左の杉が松谷文具店のすぐ前。



写真提供：杉原氏

豊後街道の歴史ロマンを活かしたまちづくり



坂梨宿場会の皆さん

有志でつくる坂梨宿場会（赤星永幸会長）では、平成11年の結成以来、最も坂梨が栄えた江戸末期から明治までの歴史をもとにまちづくりを進めています。坂本龍馬や勝海舟が歩いた歴史をはじめ、会の皆さんは、歴史に詳しい嘉悦・渉さんを講師に度重なる勉強会、現地調査を繰り返し、今や、また来たい散策スポットと言われるまでに街並みを整備されました。案内板や常夜灯、軒灯、水車などが風情を醸し出した通りは、四季折々に魅力があり桜の季節は特に人気があります。坂梨宿場会が開設するホームページは、

歴史を語り20年
第1号ボランティア案内人嘉悦 渉さん
(宮地)

毎日更新され、ライブ映像も備えるなど、大変充実した内容で紹介されています。「一人一人がやれることでまちに貢献する」が合言葉。今後の取り組みも楽しみな坂梨宿場会です。

一の宮町史の編纂委員であつた嘉悦さんは、町の歴史を大変詳しく調べておられ、それを快く人々に伝える貢献は、まちおこしや人材育成に大きく反映し効果を見せています。この特集にあたっても取材・資料協力をいただきました。今、観光名所には案内人が設置され、一つのチームになつていますが、嘉悦さんは20年前から取り組んでおられ、県内外大変多くの人たちに、阿蘇の魅力を伝えていきます。経験年数からして本市で初代のボランティア案内人ではないでしょうか。